

1	公開授業実施日時	2017年12月13日（水）10:35～11:2
2	場所	京都教育大学附属桃山中学校学校2年3組教室
3	対象	2年3組（中学校2年生）40名
4	授業者	松本 圭祐
5	島名	グローバル・イシュー
6	単元名	文学の中の戦争
7	関連する教科・領域	国語科
8	単元の目標・ねらい	文学で戦争を表現する意味・可能性について自分の考えをもつ。
9	グローバル・スタディーズとしての目標・ねらい	<p>戦争という世界で解決しなければならない課題について、文学を通して、その脅威や悲惨さを理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル社会に生じる課題を理解することができる。 ・グローバル社会の課題を多面的に捉えることができる。 ・他者との考え方の違いを調整することができる。 ・課題の解決の方法を判断することができる。
11	単元の評価規準【教科・領域として】	教材の内容・表現について理解し、文学で戦争を表現する意味や可能性について自分の考えをもつ。
12	単元の評価規準【グローバル・スタディーズとして】	戦争を伝える媒体して文学の可能性を探究し、文学を通して戦争を学ぶ意味を考える。
13	単元計画	<p>全5時間</p> <p>〈第1次〉背景にある戦争を理解して「ゼブラ」を読む</p> <p>〈第2次〉他の文学教材を読み、戦争がどのように描写・表現されているか協同的に考えを深める。（本時）</p> <p>〈第3次〉戦争を伝えるものとして文学だからこそできる可能性について考え、自分の納得いく考えを形成する。</p>
14	本時の目標	戦争が文学を通してどのように表現されているか、その表現の工夫について自分の考えをもつ。
15	本時の展開	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体の目標と本時の目標を確認する。（「全体の目標」と「本時の目標」を提示する。） 2. 第3時までの学習活動の確認 3. 本時の流れを説明する。 4. グループに分かれ、読んだ教材の内容を確認する 5. 課題①「戦争の脅威・悲惨さなどを読み手に伝える工夫」が選んだ文学作品にどのように表れているか考える。 6. 課題②「戦争を読み手に伝えるために、文学になくってはならない重要な工夫」を考える」と思うものを最低2つ選ぶ。 7. 各グループで課題①②の意見を一枚の用紙にまとめ提出する。 8. 次回の説明 9. ふりかえりシートの記述
16	グローバル・スタディーズとしての特徴	・戦争体験を語ることができる人が減少していく中、過去のものとなりつつある戦争を後世に語り伝えるものとして文学の可能性を追求する。
17	授業者から一言	国語科としては複数の文学教材を通して単元の問いに対する自分の考えを表現させ、グローバル・イシューとしては文学の働きに着目して戦争の脅威・悲惨さ、平和の大切さを理解させることを目指し、本単元を構想しました。

グローバル・イシュー指導案(国語科)

指導者 松本圭祐

1. 日時 12月13日(水) 3限(10時35分～11時20分) ※45分授業
2. 場所 京都教育大学附属桃山中学校 第2学年3組教室
3. 対象 第2学年3組
4. 島名 グローバル・イシュー
5. 単元名 文学の中の戦争
6. 関連する教科・領域 社会科
7. 単元の目標・ねらい
文学で戦争を表現する意味・可能性について自分の考えをもつ。
8. グローバル・スタディーズとしての目標とねらい
戦争という世界で解決しなければならない課題について、文学を通してその脅威や悲惨さを理解することができる。
9. グローバル・スタディーズにおける位置づけ
出会う 広がる
10. 単元の評価規準(教科・領域して)
教材の内容・表現について理解し、文学で戦争を表現する意味や可能性について自分の考えをもつ。
11. 単元の評価規準(グローバル・スタディーズとして)
戦争を伝える媒体として文学の可能性を探究し、文学を通して戦争を学ぶ意味を考える。
12. 単元計画
全5時間
〈第1次〉背景にある戦争を理解して「ゼブラ」を読む
〈第2次〉他の文学教材を読み、戦争がどのように描写・表現されているか協同的に考えを深める。(本時)
〈第3次〉戦争を伝えるものとして文学だからこそできる可能性について考え、自分の納得のいく考えを形成する。
13. 本時の目標
・戦争が文学を通してどのように表現されているか、その表現の工夫について自分の考えをもつ。
14. グローバル・スタディーズとしての特徴
・戦争体験を語ることができる人が減少していく中、過去のものとなりつつある戦争を後世に語り伝えるものとして文学の可能性を追求する。
15. 本単元について(グローバル・イシューとして)
本単元では、「戦争を後世に語り伝えるために文学は何ができるか」という問いに対す

る自分の考えを表現することを目指す。

第二次世界大戦終戦から 70 年が経過し、当時の体験を私たちに語り伝えられる人が減っており、戦争の悲惨さや脅威を今の子ども達が語り聞くといい機会は数十年前と比べ、より貴重なものとなっている。現在も世界では地域紛争も含め、武力による争いは絶えず起きている。しかし、日本国内で直接起きているのではないがゆえ、私たちは一つの事実としてのみ認識できていないのではないか。戦争に対して、悲惨さや脅威、恐怖をもたらすという認識はあるものの、子ども達は戦争を過去に起こったもののいう歴史的知識として捉えているにすぎないと考える。数十年もすれば、第二次世界大戦を語ることでできる者は当然おらず、戦争がもたらす悲劇を深く学ぶことが難しくなる。この戦争体験者と同じように、現在はもちろん過去の戦争を後世に伝える媒体として文学に着目する。文学は戦争を、作品世界の中でその場にいるかのように生きるという疑似体験をもたらす。それは説明的文章や歴史の教科書のように事実として伝える傾向の強い文章では困難であると考え。この疑似体験が文学で戦争を学び伝えるのに期待される効果である。読むことで得る嬉しさや悲しさなどは文学だから味わえる感動体験である。そして「文学だからこそできる」ことについて生徒一人一人が文学の価値を発見することで、文学を読むことに魅了されるだけでなく、それを学ぶ意味を認識することができるであろう。

本実践では、疑似体験を通して読者として戦争について感じたこと・考えたことを登場人物の設定、物語の時間の流れ、語り手、語彙など文学作品の表現・構成に着目して文学で戦争を表現する意味を、グループ活動を通して考えさせる。第一次で扱う「ゼブラ」は、その背景にはベトナム戦争があるが、戦争を中心とした文学作品ではない。アダムという少年がウィルスン先生をはじめ登場人物との関係を軸に読み、アダムの変化を捉えさせる作品である。しかし、その背後にある戦争も登場人物を語る上では欠かせない要素と考える。文学作品としてただ読むのではなく、背後に隠れている戦争について歴史的な理解を踏まえ登場人物の理解を深めることで、文学の中に戦争が隠されていることを理解し、戦争がこの作品を構成するのにどのような働きがあるのか表現・構成面から捉えさせる視点の獲得を目指す。

また、一つの作品だけでなく複数の作品を読み比べ、本単元の目標に対する自分の考えを形成させることを目指す。そのため第二次では、はじめに既習の戦争文学として「ちいちゃんのかげおくり」を取り上げ、読者に戦争の悲惨さなどを伝える工夫について考えさせる。また、その後こちらで準備した複数の戦争教材の中からグループで一つ、個人として一つの計二作品を読み、複数の作品を読んだ経験を基に戦争を文学で伝える可能性を考えさせる。

第三次では、これまでの活動のまとめとして本単元の目標に対する自分の考えを書かせる。ここまで生徒は少なくとも四教材を戦争に着目して読んでいることになる。これまでの活動を踏まえ自分の考えを表現させる。

16. 単元の学習指導計画(全 5 時間)

時間	学習内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の目標と学習内容について理解し、本単元の学習の見通しをもつ。 ・「ゼブラ」の通読及び感想を記入し、作品の内容を捉える。 ・お気に入りの登場人物を選びグループで交流し、登場人物の人物像を整理し役割を考える。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の背景にあるベトナム戦争について説明し、歴史として戦争を学ぶ。(パワーポイント) ・背景にある戦争に着目し、登場人物の一人であるゼブラの心情を考え、文学における戦争の役割を捉える。 ・第4時に向けて、準備した文学的文章の中からグループで一つ選び、全員が読むように指示する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「ちいちゃんのかげおくり」を読み、感想を教室で共有する。 ・戦争を伝えるための工夫とその表現の意図を協同的に考え、戦争を伝えるための文学として分析する視点を養う。
4(本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・読んできた文章について、グループで内容を確認し、協同的に課題に取り組めるよう作品の理解を深める。 ・「戦争を読み手に伝える工夫」や「この文章になくてはならない表現」をグループで考え、文学を通して戦争を伝える意味を考える。 ・各班でまとめた意見を指定のワークシートに書いて提出する。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に提出した各グループのワークシートの内容を教室全体で共有し、文学で戦争を表現する工夫やその視点を共有する。 ・戦争を伝えるために文学だからこそできることについて自分の考えを表現し、グループ・教室全体で共有し、もっとも納得のいく考えをもつ。

17. 単元の評価

- ・積極的に課題やグループ活動に取り組み、作品の理解や考えを協同的に広げようとする。
(関心・意欲・態度)
- ・戦争を文学で伝える意味やその可能性について、文学の表現方法を踏まえ自分の考えを表現している。(書くこと)
- ・複数の文学作品を読み、戦争がどのように表現され、作品をどのように構成しているか自分の考えを持つ。(読むこと)

18. 本時の展開 (45 分)

	学習活動	生徒の活動・予想される生徒の反応	備考・準備物
--	------	------------------	--------

導入 (6 分)	<p>1. 全体の目標と本時の目標を確認する。 (「全体の目標」と「本時の目標」を提示する。)</p> <p>2. 第3時までの学習活動の確認</p> <p>3. 本時の流れを説明する。 (個人で読んだ文学作品もあるので、グループでの話し合いに活用してもよいことを伝える。)</p>	<p>・本時の目標をワークシートに記述する。</p> <p>・これまでのワークシートと振り返りシートに目を通し、これまでの学習を確認する。</p> <p>・ワークシートを配布し、ワークシートに内容を確認する。</p>	フ ァ イ ル・ワー ク シ ー ト・配布 した 文 学 作 品
展 開 (36 分)	<p>4. グループに分かれ、読んだ教材の内容を確認する</p> <p>5. 課題①「戦争の脅威・悲惨さなどを読み手に伝える工夫」が選んだ文学作品にどのように表れているか考える。</p> <p>6. 課題②「戦争を読み手に伝えるために、文学になくてはならない重要な工夫」を考える</p> <p>7. 各グループで課題①②の意見を一枚の用紙にまとめ提出する。</p>	<p>・グループに分かれ、読んだ教材の内容を話し合い確認する。</p> <p>・グループで作品を確認し、話し合いグループの意見をまとめる。</p> <p>・ワークシートにグループの意見を記述する。</p> <p>・グループでワークシートを確認しつつ、協力してワークシートにまとめる。</p>	
ま と め (3 分)	<p>8. 次回の説明</p> <p>9. ふりかえりシートの記述</p>	<p>・振り返りシートに振り返りを記述する。</p>	